



①



(左上から反時計回りに)

- ① 「伝灯奉告法要」
ロゴマークとスローガン
- ② ご法要のようす (10月8日撮影)
※「本願寺新報」10月20日号より転載
しました。
- ③④ 法要お勤め前の円光寺のお同
行の皆さん
(10月8日、ご本山御影堂)

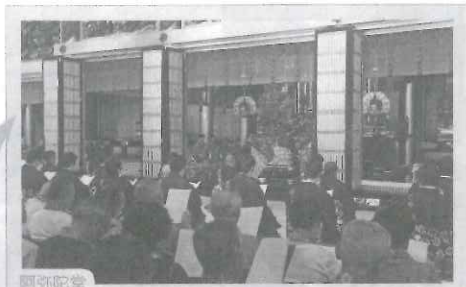
ようこそ

第 38 号

浄土真宗本願寺派
円光寺

〒870-0108
大分市三佐3-15-18
TEL097-527-6916
FAX097-527-6949

前門さま 御影堂から阿弥陀堂へ



阿弥陀堂

「正信偈」中にご転座



御影堂

ご門主 阿弥陀堂から御影堂へ

②

伝灯奉告法要にお参りしました

ご開山親鸞聖人から連綿と伝えてこられた浄土真宗のみ教え(法灯)を第二十五代の専如ご門主が継承されたことを阿弥陀如来と親鸞聖人の御前に奉告され、そのみ教えが広く伝わることを願ひ営む「伝灯奉告法要」が十月一日より始まりました。来年五月まで十期八十日間のお勤めで国内外より多くの僧侶門信徒がお参りされます。

円光寺から同行十六人が十月八日(土)に大海組団体参拝団として専想寺様(森町)光国寺様(里)徳応寺様(佐賀関)と一緒に参拝しました。

このたびの法要の特色は、阿弥陀堂(浄土真宗の御本尊阿弥陀如来を中央にご安置する御堂)と御影堂(親鸞聖人の御真影を中央にご安置する御堂)の両堂で同時にお勤めをされるということです。御導師はご門主で阿弥陀堂にご出座され、即ち前門さまは御影堂に分かれてご出座されます。参拝者も両堂に分かれて、私たちは御影堂に座りました。正信偈のおつとめでしたが、「依経段」(帰命無量寿如来から難中之難無過斯まで。親鸞聖人が浄土三部経に依って作られた偈文)で一度くざられ、両門さまがご出座の御堂を交代される「ご転座」の後、正信偈の「依釈段」(印度西天之論家から唯可信斯高僧説まで。浄土真宗の基盤となる教えを伝えてくださったインド、中国、日本の七人の高僧の徳をたたえられた偈文)をおつとめしました。

正信偈のおつとめが途中で止み前門さまが退堂されて、「一体何が起ったのか」と気をやむ中をご門主が入堂されたときは堂内から思わず歓声があがりました。法要スローガン「うけつぐ伝灯伝えるよろこび」を体して思ったことです。

伝灯奉告法要参拝の旅 10月8日(土)~9日(日)



ご
本
山

8日

このご縁に5名の方が帰敬式(おかみそり)を受けて「法名」をいただきました



御影堂、阿弥陀堂の両堂前で記念撮影
2日間同じバスに乗車の専想寺様のお同行
皆さんと一緒にです。大変お世話になりました



「モダン寺」といわれる独特な造りの神戸別院の前で



神
戸
別
院

9日

本願寺神戸別院ご輪番と共に
円光寺参拝団16名の皆さんです



専想寺様の調声で
お勤めをしました

おごと温泉



3連休の観光シーズンで大変多く
の人でしたが「円光寺」の団旗の
もと無事に旅を円成できました



全室露天風呂付きの豪華ホテルに宿泊
懇親会の締めは「鶴崎踊」で盛り上がりました



姫
路
城

9日

白鷺城の名の通り
青く澄んだ空に白いお城が
ステキでした

世々生々

天皇陛下の生前退位をめぐる論議が続いている

◆昭和天皇が崩御されて平成の天皇になり、日本国憲法のもと象徴天皇として幾多の公務を遂行されてきた。皇后さまといつも一緒に国民に寄り添うお姿は、皇室を開かれた身近なものにしてくださった◆八十歳を超えるご高齢となり健康面の不安も増して天皇の公務が難しくなると、この夏皇位継承についてお気持ちを表明された◆万世一系の天皇といわれる。皇位は誰でも継がれるものではなく、生まれながらにして定められ代わりがきかない。終身のつとめで自らの意思でどうすることもできないといえ、これほど不自由なことではないのではとさえ思う◆このたびの法統継承を重ねてみる。親鸞聖人からの血脈であるご門主の継職だが、浄土真宗のみ教え(法灯)を継承することの意義である。本願念仏のご法義繁盛と宗門の興隆のためにご門主として前門さまがこれから果たされることは大きい◆住職、坊守、門信徒等々、その立場やお役目は違っても、私たちは同じ南無阿彌陀仏のお念仏に生きる同行である。次の世代にお念仏のいのちのバトンをつなぐ心意がいい。

お朝事「法話」より

「また来いよ」

秋の彼岸に入りました。昨日は日曜日で朝から本堂の納骨堂にお参りの方がありました。

さてお墓には墓碑銘といつて墓石に文字が刻まれています。

大抵は「〇〇家之墓」とあり、浄土真宗門徒のお家のお墓には「南無阿弥陀仏」とか「俱会一処」と彫られたものがあります。

なかにはその人の業績を文章にしたものもあり、今は「平和」とか「愛」とか「友情」とか、自分の好きな言葉を記したお墓も多く見られます。

タレントの所ジョージさんが自分のお墓を建てて「また来いよ」と書いたという話を聞きました。なかなか思うところがあつて、いいですね。

皆さんもお墓参りをされると思います。一年に何回お参りしますか。毎日は難しくても、お彼岸やお盆には家族そろつてお参りするのが習慣になつてい

るお家もあると思います。ではどんな気持ちでお墓にお参りしていますか。お墓には先に往かれたご先祖のお遺骨が安置されています。だから先



追悼を願う者、戦没者、戦全「日念」に記した終戦の日の正午から8月15日のおつきを鐘を

祖有縁の大切な方に会いに行くという気持ちでお参りする人が多いのではないのでしょうか。

ただ会いに行くといつても、大切な方は今はお遺骨となつて、声をかけても懐かしい声が返ってくるわけではありません。そこで「また来いよ」という言葉になつてくれているのですかね。

浄土真宗のご本尊の阿弥陀さまは南無阿弥陀仏のお名号(言葉)になつた仏さまです。

皆さんは毎日このお朝事にお参りして、お内陣のまんまんに中にお立ちの阿弥陀さまにお会いして南無阿弥陀仏とお念仏申しますね。するとそのまま南無阿弥陀仏の言葉が返ってきます。「ようこそお参りなさいました。あなたのお参りを待っていました。いつもあなたのことを思っ

ていますよ。またお参りに来てくださいね」と声をかけてくださっているのです。

あたたかいですね。ありがたいです。あなたのことを待っていたという事は、いつもあなたのことを心にかけて心配しているということですね。

そして阿弥陀さまがすごいのは、この本堂に來ないと、お家のお仏壇にお参りしないと、お会いしない仏さまではないということですね。南無阿弥陀仏とお念仏申すところに、「あなたのことをいつも思っていますよ。あなたといつも一緒にいますよ。大丈夫だから私にまかせて一緒に生きていきましょね」と力強いおはたらきの南無阿弥陀仏の仏さまになつてくださっているのです。先に往かれた方は阿弥陀さま

のお浄土に生まれて、阿弥陀さまと同じさどりの仏さまとなり、南無阿弥陀仏と私のところに還つて来て、いつでもどこでもどんな状況にあらうとも「必ず救う、まかせよ」の南無阿弥陀仏のおはたらきとなつて一緒に生きてくださつてあるのです。

お彼岸のご縁です。私たちの彼岸は阿弥陀さまのお浄土、懐かしい方々が往つてらっしゃる私たちのいのちの古里です。どうぞお寺にお参りして阿弥陀さまに会いに来てください。一緒に阿弥陀さまの救いの法、南無阿弥陀仏のみ教えを聞かせていただきます。 (9月19日)

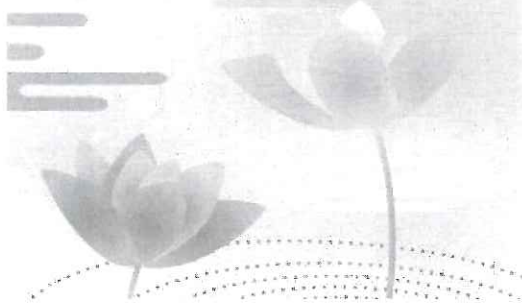
お朝事にお参りしましょう
▲毎朝6時30分〜7時V

ご案内

- ◆御正忌報恩講
 - 11月26日(土) 13:00~15:00
 - 同 19:00~21:00 (子どもほうおんこう)
 - 11月27日(日) 11:00~15:00
 - 同 19:00~21:00
 - 11月28日(月) 10:00~12:00
 - ◆常例法座
 - 12月17日(土) 10:00~11:30
 - ◆除夜会(鐘つき)
 - 12月31日(土) 23:40より
 - ◆元旦会
 - 1月1日(日) 除夜会に引続き
 - ◆初法座
 - 1月2日(月) 10:00~11:00
 - ◆常例法座(親鸞聖人祥月御命日)
 - 1月16日(月) 10:00~11:30
 - ◆常例法座
 - 2月16日(木) 10:00~11:30
- “月に一度は
お寺参りしましょう”
- ※詳しくは「寺通信」でご確認ください。

円光寺ホームページを開設しました。よろしくアクセスしてください

<http://j-enkouji.jp/>



円光寺にようこそ

光あふれて
いのち輝く
みんなのお寺



※トップページの画面です

モバイルサイトにアクセス!



「皆春鶴崎踊愛好会」囃子方の名調子に踊りの輪が大きくはすみしました(8月12日)

第18回盆おどり大会



小学生52名と中高生10名が参加しました(7月31日~8月1日)

第36回サマースクール



岸秀乗師(由布市誓岸寺様)に布教お取り次ぎをいただきました。ほればれとお聴聞(9月21日)

秋季彼岸会法要



お朝事のおつとめてご院家さんから仏さまのお話を聞きました(8月1日)



2日間で3度の食事があり、夕食はカレーライスでした。皆で一緒に「いただきます」(7月31日)

敬老会



お寺の敬老会は御仏前でお念仏申して、阿弥陀さまが一緒のご縁です(9月29日)

あ と が き

敬老の日が近づくと、百歳以上が何人とか平均寿命がなどと高齢者を鼓舞する数字が躍る。「これからまだまだ頑張っている。生きてください」と言われている。ようで、何か息苦しい思いをしている人も多いのではないかと。少し足を止めてこれまでの人生を見直すことも大事だと思おう。ただ昔を懐かしむことではないが、若い時代を共に生きた友人たちと会って、そこからまた新たな歩みを始めたいとも思う。その出会いの場がお寺というのはいかがなものか。子どもの頃日が暮れるまで遊んだお寺で、みんなであそぼ!